

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
15	山下いづみ（19）	<p>1. 市立中学校の学生服の縫製販売について</p> <p>近年では、一人一人の個性を尊重する多様性への配慮等から、学生服のモデルチェンジをする学校が出てきている。モデルチェンジをするに当たり、各学校でその過程も様々であるが、縫製を、特定の1社のみと契約をするのか、もしくは複数から自由選択をするのかが全国的に課題に上がっている。今後、中学校で学生服のモデルチェンジが予想される中、学生服購入に混乱が起きぬように、以下質問をする。</p> <p>(1) 学生服のモデルチェンジの状況はどのようなか。今後の動向をどう見ているのか。</p> <p>(2) 変更にあたって、各学校でどのようなプロセスを経ているのか。</p> <p>(3) 縫製するに当たり、1社もしくは複数から自由選択をすることになるが、双方のメリット、デメリットをどう考えているのか。</p> <p>(4) 各学校の学生服の仕様書を基に学生服販売を希望する複数の販売店（または製造メーカー）が契約できるよう市の方針を示してはどうか。</p> <p>2. 制度や分野の狭間、家族関係の悪化などで支援が受けられない状況を改善することについて</p> <p>生活困窮、ひきこもり、ダブルケア等、複合的な課題を抱える世帯の中には、制度の狭間で支援につながることなく、社会的に孤立し、生きづらさを抱えていることが少なくない。複雑・多様化した課題を抱えた世帯は、生活問題が顕在化しにくく、地域から孤立しがちである。このような課題に、相談支援機関や地域関係者が連携をして対応していくことが求められている。</p> <p>本市においては、様々な相談場所を一覧表にまとめた「ひとりで悩まないで 相談できる場所があります」や「富士市子ども・若者のための相談機関マップ」などがある。また、関係機関が集まりニートやひきこもり、不登校、発達障害等の悩みに個別に応じる合同相談会なども開催されるなど、支援体制の構築に努めている。</p> <p>しかし、支援対象から外れ、困っている人たちがいる現状に対して、いま一度、支援体制、関係機関連携を見直し、支援を充実させていくことを望み、以下、質問をする。</p> <p>(1) 制度や分野の狭間で生じている課題は何か。それらの課題に対してどのように対応をしているのか。</p> <p>(2) 人材を増やすことや人材を養成していくことが必要ではないか。</p> <p>(3) 家族関係の課題を含め個を尊重した寄り添う支援を構築してはどうか。</p> <p>(4) 医療や福祉の分野を越えて、多領域でつながり、継続した支援を受けることができるよう方策を立ててはどうか。</p>	市長 及び 教育長 担当部長